

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1954号 2009年01月13日(火)

日本が連休の間に既に世界の市場が始まっていますので、短めに。全体的な印象を言えば、年末・年始にかけての“不思議な楽観論”が過去一週間に発表された経済指標の厳しさを再確認する中ですっかり消えて、「高値を試し終えたあとは、安値を試しつつある」といったところでしょうか。「安値」とは、株価、ドル、そして原油などの動きを指す。日本の市場の人間としては、為替市場の動きは「円高」と言った方が妥当だろう。経済指標の厳しさの代表は米雇用統計である。

まず終わったばかりの週明け月曜日のニューヨークの株は、ダウで125.21ドル、1.4%下げて引値は8473.97ドルとなった。4日連続の下げで、8500ドルの水準を割った。9000ドルの水準があっという間に遠くなって、レベル的に言えば7000ドル台が遠望できる状況になってきたという印象だ。下げを先導したのは、7000億ドルのうち既に3500億ドルを使ってしまった不良資産救済プログラム(TARP)の今後の活用に関して。オバマ次期大統領の意向を受けてブッシュ政権が議会に活用を要請したが、その中で次期大統領が銀行への資本注入への使用にどちらかと言えば慎重になって、むしろ住宅ローンを含む不良債権処理により多く活用する意向と伝えられたことなどが下げの要因。

シティは子会社のスミス・バーニーをモルガン・スタンレーに売却する交渉の最終段階にあると見られているが、むしろこのニュースが嫌気されて月曜日一日だけで17%も下げた。この下げが銀行業界全体の株価低落に繋がり、加えて業績悪化予想が強まったアルコア(6.9%の下げ)などがダウを引き下げた。同社の引け後の決算はこの観測の正しさを証明した。

ニューヨークの株高につられて年末・年始に上げていた世界の株価も、再び下げ局面に入っている。インドにはインド版エンロン事件があり、中国の株もこのところ冴えない。日本を含めて先進諸国の株価も「オバマ期待」疲れの中で、やや下値を試す展開か。ただし一日で上下700ドルも動くと言ったレベル感を失った状況ではない。当時よりは市場環境は大きく変わった。

「実体経済の厳しさ」は年末・年始の株価上昇の中でも予想されていたものでした。12月の米雇用統計については、失業率の7.2%(11月の6.8%からの急上昇)はやや予想外としても、非農業部門の就業者数の減少幅(52万4000人)は十分予想されたもので、この結果さらに改訂があるのでしょうか、このニュースでも繰り返し予測していたよう

に年間合計で250万人を突破して258万9000人となった。オバマが景気対策で生み出す職の数を徐々に引き上げているのは、一方で失業者が増えているという現実がある。小売りの不振も続いている。

為替市場の動きも激しい。ここ数営業日の動きを見ると「激しい円高」の展開。ドル・円で言えば88円台があり、ユーロ・円では118円台があり、オージー・円、ニュージー・円でも60円、50円というこれまでの目安に接近する局面が週明けのロンドン、ニューヨークなどの海外市場では見られた。もともと年末・年始の円安が根拠希薄だっただけに、欧米市場の景況悪化、そしてヨーロッパなどでの利下げの展望を見ての動きと考えられる。ただしドル・円とユーロ・円を除けば筆者は円高は良い水準まで来ている、と考えている。一時50ドルに反発していた原油相場的大幅反落(37ドル台への)は、世界景気の悪化を再認識した動きでしょう。

今週の主な予定は以下の通り。

1月13日(火曜日)	12 月国際収支 12 月銀行貸出動向 12 月景気ウォッチャー調査 11 月の米貿易収支 12 月の米財政収支
1月14日(水曜日)	12 月の米小売売上高 11 月の米企業在庫 ベージュブック
1月15日(木曜日)	11 月機械受注 11 月企業物価指数 ECB 理事会 12 月の米生産者物価 1 月 NY 連銀製造業景気指数 1 月フィラデルフィア連銀指数
1月16日(金曜日)	11 月特定サービス産業動態統計 12 月の米消費者物価指数 11 月の米対米証券投資 12 月の米鉱工業生産・設備稼働率 1 月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報) 米政府が GM に 54 億ドル融資実施(第2次)

《 have a nice week 》

正月休みが終わったばかりなのに3連休。土曜日はグリーン上のゴルフボールが自分で動き出すほどの強風、あとの二日はまたまた乾燥を呼ぶかのような冬の低湿度の良い天候といった展開。皆様はどのような週末をお過ごしだったでしょうか。

まあでも熱心に見たスポーツイベントとしては、やはり大相撲でしょう。朝青龍。初日、日曜日の朝青龍は彼らしさが出ていて面白い取組だった。一瞬「これで終わりか」と思ったところから一転して状況を切り開いた。稀勢の里の詰めが甘くなかったら、朝青龍は負けていたと思う。その後押し返して勝った。最後の稀勢の里に対する一発は余計ですが、まああれが朝青龍でしょう。

月曜日の琴奨菊との取組は余裕があったので、最後は相手の力士に余裕の手を伸ばして、相手をいたわっていた。余裕があるときの朝青龍と、ないときの朝青龍は全く違う。危機に直面したときの方が彼の本性が出る。良くも悪くも。しかしどんな時でも懸賞は右手で取れるようになってきている。「やっと」という意見はあるだろうが。

しかし全体的に言うと、朝青龍の肉体は私の観察では限界に接近しつつあるように思う。まだ若いのに、多分相撲以外の事に興味が強いのでしょう。いつも相撲を考えている白鵬とは違う。良い悪いの問題は別にして。今は瀬戸際だから頑張っているし、改めて自分の力を示したいのでしょう。しかし勝ちだすと、また他のことに興味が行くように思う。

中日当たりが朝青龍にとっては一つの難関になるでしょう。大関陣との対決は厳しいものになるし、白鵬との対決は彼がどのくらい戻ったかの大きな指標になる。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》